

# 柏崎良寛貞心会

第43号  
平成27年2月5日  
事務局  
柏崎市  
東本町3丁目12-18  
柏崎良寛貞心会  
会長 中村由紀子



温かな年に  
なります様に  
会長 中村由紀子

新年おめでとうございます。会員の皆様にとつて、昨年はどんな年でしたでしょうか。自然災害の脅威に心を痛める事の多い年でもありました。私事ですが新しい生命の誕生や別離などとても忙しい一年でした。私は体力に自信がないので身体も心も健康でなければ何も出来ないと感じ、何十年ぶりか地区の元朝体操に参加してみました。ひんやりとした体育館の中で身体を動かしてゲームをし、お汁粉を頂きました。一步踏みだすと又異なる風景が見えてきます。会員の皆様、行事には積極的に参加をお願いします。寒い日が続いています。お身体をご自愛下さい。本年もご指導下さいます様宜しくお願いします。



新春におもう  
副会長 白倉南侗

新しい年がまためぐつてきました。皆様にとつて佳きことの一つでも多い年であつてほしいと、心から希つております。私は、良寛の貞心尼の生きた歳をとうに超えてしまったことに何かたまらない恥ずかしさを抱きながら、つたわつてくる良寛の温かさの在り処をさがす旅に出ようとおもいます。蕭条たり三間の屋、催残朽老の身。いわんや玄冬の節にあたり、辛苦つぶさに陳べがたし。粥を啜つて寒夜を消し、日を数えて陽春を遅つ。斗升の米を乞わざれば、なにをもつてかこの辰を凌がん。静思するも活計なし。詩を書して故人に寄す。

(東郷豊治 記)



新春のご挨拶  
副会長 今井竜悟

学んでも学んでも、学びきれないこの真実。ことしもこを歩くしかないと思つております。新春を寿ぎ、謹んで新年のお慶びを申し上げます。年も明け、耳にするのは「震災から二十年」というワード。あの阪神淡路大震災から二十年が経とうとしています。思いおこせば、三月には地下鉄サリン事件も起こり一九九五年が激動の年であつた事が窺えます。この間、私たちは色々な経験をしてきました。災害に対する備えも二十年前とは比べものにならないでしょう。しかし、それにもまして心の備えが肝要です。今年はいよいよ年に成りますよう、会員の皆様にご多幸を。 合掌

## ◆平成二十七年度(第三十八回) 全国良寛会新潟大会予告

総会  
平成二十七年六月十三日(土)  
会場 新潟市民芸術文化会館  
(りゅーとぴあ)  
コンサートホール

受付 十一時三十分  
歓迎演奏(パイプオルガン) 十二時四十五分

開会 十三時  
閉会 十三時五十分  
鑑賞会 特設舞台  
十四時五分新作能

「国上」良寛慈愛の手まり―解説と上演  
交流会

会場 ホテルオークラ新潟  
十八時〜二十時  
見学会 六月十四日(日)  
重要文化財 旧笹川家住宅

―良寛の法友・有願禪師をたずねて(作品解説鑑賞会)  
新飯田商工会館・雪梁舎美術館特別展「良寛と安田鞞彦の書(仮題)―作品解説鑑賞会)―新潟ふるさと村(昼食・観光物産)

※四月上旬に会員の皆様に参加申込み書を郵送しますのでよろしくお願ひします。

貞心尼法要・文化講演会

貞心尼法要 山崎将宏

去る十一月一日(日)貞心尼没百四十二年の法要が常盤台・洞雲寺で小雨降るあいにくの肌寒い陽気であったが三十六名からの同人が集い執り行われた。

洞雲寺住職今井氏、常福寺住職牧氏、お二方による読経から始まり、裏山の墓に参り、小島正芳氏による「良寛と貞心尼」の講演、席をシューズ雷音に移して懇親会(お斎)、途中、紅葉真つ盛りの松雲山荘の庭を鑑賞、秋を満喫して会場へ。

なぜ没百四十二年という年に法要が――、昨年の全国良寛会柏崎大会の盛会の報告をということであろうと私なりに勝手に解釈、仏前に坐していた。

ところで、小島先生のご講演、岡山での修行のお話から、貞心尼が初めて良寛を訪ねた際、会えずに手まりとうたを置いた話、今と違って移動は歩くより他に手がない、そんな時、心境いかばかりか。

さらに、蓮の露、交わしたうたのやり取りに加え、心境が読め

る新しく文の話、大変為になりました。

「あとは人先は仏にまかせおくおのが心のうちは極楽」(貞心尼)傘寿を迎えた今、こうありたいものと念じております。



貞心尼法要に参加して

村田和子

小雨の中、お墓参りを脳裏に浮かべ、これ以上雨が強くなりませんようにと願いつつ、法要が営まれる洞雲寺へ向かう。出雲崎大会以来の顔合わせで挨拶が行きかう中、読経が始まり、厳かな時が流れる。暫くして祭壇の中段に貞心尼さんが、静かに目を伏せ、座して動かない姿を見たような気さえしました。

小島先生のご講演は、ご自身が書かれた貞心尼さんの句を高くかかげながらの内容のとても濃いものでした。

雨足も少しづつ強くなり、ぬかるんだ足元に気をつけ、傘をさしてのお墓参りになりました。読経の折には、小枝の先からぼたぼたと落ちる冷たい雫が、地にしみ込んでいく様子もまた印象的でした。

帰りには、ソフィアセンター脇に建つ、犬をも愛したと言われる貞心尼像に立ち寄りました。はちすの露、焼け野の百草、もしほ草に思いをはせ、みたび読みたいと思つた有意義な一日でした。



## 貞心尼法要に

### 参加しての雑感

田中博子

十一月一日小雨の中、洞雲寺にて貞心尼の法要が行われ、紅葉の始まりかけた美しい境内を眺めたら、雨もいいものだなと暫く見入っております。

この会に入会する事になりましたのは、数年度の貞心尼法要に知人のお誘いで参加しました時からでした。以来今日に至って居りますが、何せ不勉強のし続けどお恥ずかしい限りではあります。が、何となく一途な女性に講演等を聞いているうち気持ちが動いて、もう少ししっかり知ってみたい気がしてきましたこの頃でした。

私が柏崎へ転入してきました時は、「貞心尼不求庵跡」の標柱が立っています向かい側の家に住んでいました。今はきれいな駐車場になっていますが、その頃は草の生い茂った後の方に家があった、そこへ回覧版を持っていったものです。思えばこれも縁かとも思います。

少々熱を入れて…と気を引き締めて経堂に座りしみじみと読

経に耳を傾けて居りました。これから皆様の熱意を載せて、一歩前進出来ればと願っております。



## 貞心尼法要・文化講演会

田村光一

昨年、事務局長に就任したといえ、私にとって貞心尼法要として、文化講演会に参加することはいずれも初めてのことでした。ましてや、当日の司会役は、その都度前事務局長の堀さんに確認しながらの進行であり、会員各位のご協力に感謝申し上げます。

貞心尼法要を目の当たりにして、多くの参列者と共に貞心尼さんを偲ぶことができ心躍るばかりでした。引き続き行われました小島正芳先生の「良寛と貞心尼Ⅱ」と題しての講演は、素人の私にもわかりやすく、良寛の生きざまや貞心尼が良寛を世間に知らしめることとなった話など、興味深く良寛と貞心尼を学ぶことができ有意義な時間となりました。

思い起こせば、貞心尼を知るときつかけとなったのは、私が観光交流課に在籍していた当時、故駒谷正雄さんから貞心尼ガイド養成のご提案をいただいたことが最初でした。

ガイド養成講座は、前会長の田村甚三郎さんを講師にお願いし、平成二十一年八月六日から七回の講座と一回の現地研修を行い、同年九月二十七日貞心尼ボランティアガイド一期生十名余りが誕生しました。その後、同年十二月新潟県と日本観光協会にボランティアガイドを団体登録。平成二十二年三月二十二日にはボランティアガイドデビューを果たし今日に至っています。



**良寛関係施設行事案内**

**良寛記念館**

三島郡出雲崎町米田一番地  
☎0258-178-2370

**新春企画展「在世時の良寛像」**

〔期間〕1月4日(日)～

3月31日(火)

禅宗のお寺で修行された良寛さんは、漢詩、和歌、書の道にも精通し、多くの作品を遺しておられます。今回の企画展では、良寛さんの在世中又は没後間もない頃に描かれた良寛の肖像画を多数展示いたします。良寛さんと直に交流した人達が良寛さんをどのようにに捉えていたかを窺うことの出来る文書類も併せて紹介いたします。

**良寛の里美術館**

長岡市鳥崎三九三八番地  
☎0258-174-3700

**企画展Ⅲ「和島地域の所藏品展」**

〔期間〕1月4日(日)～

3月30日(月)

良寛の温かいぬくもりと凛とした品格ある書、そして和島地域で大切に所蔵されてきた貴重な書画を一堂に集めて展示いたします。

尾竹三兄弟(越堂、竹波、国観)合作の「月夜の猫と狸の戯れ」他、珍しい作品の数々をお楽しみください。

**分水良寛史料館**

燕市上諏訪九番九号  
☎0256-97-2428

**新春企画展「郷土作家展」**

〔期間〕2月17日(火)～

3月15日(日)

常設の貴重な良寛遺墨の他に、この度は燕市在住の書家、画家、工芸家等のみなさんの作品を多数展示いたします。良寛に魅せられた郷土の身近な作家たちの作品を是非ご鑑賞下さい。

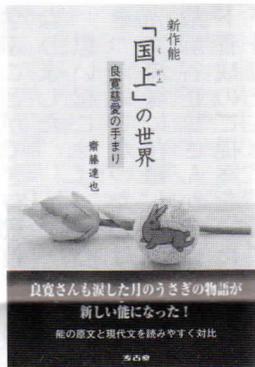
越後の厳しい冬の国上を望み良寛さんの生きざまに触れてみては如何でしょう。

**新才能 国上の世界**

**書籍案内**

全国良寛会新潟大会総会で、「新才能『国上』良寛慈愛の手まり」が初めて上演されます。その鑑賞の手引きとなりますその作者・斎藤達也著「新才能『国上』の世界」が刊行されましたので紹介します。

●四六判 八十六頁 並製本 定価 千二百円＋税 ●発行 考古堂書店



**五合庵の春 書籍案内**

平成二十年九月十五日に柏崎良寛貞心会の文化講演会で「良寛と貞心尼」と題して講演をされました市川信夫さんが平成二十六年十月二十三日に八十一歳で死去されました。生前手がけた著作「五合庵の春 良寛現代詩」がこのほど刊行されましたので

ご紹介いたします。  
●変形 200×210mm 百三十二頁 並製本箱入 定価千八百円＋税 ●発行 ファーストワン



**事務局通信**

平成二十七年年度会費の口座引き落としの方は、信金口座より毎年四月に振り替えされます。郵便局での払い込みの方は、払込書を同封いたしましたので、よろしくお願ひ申し上げます。

**編集後記**

▼三月十四日には待望の北陸新幹線が開通します。まだ寒さが続きますが、春を待ち遠しく思う気持ちは皆同じかと思えます。健康第一に、新たな目標を持って進みたいと思います。

(事務局 田村)